

第 13 回有明地域医療構想調整会議に係る部会協議結果

1 部会開催日時

令和 6 年 2 月 5 日（月）午後 1 時 30 分

2 出席者

伊藤隆康、本里雄一、中村光成、松山公士

欠席者 2 名（大嶋壽海、田宮一郎）は伊藤隆康会長に委任

3 その他の病院及び有床診療所の対応方針についての協議の結果

・学校医、平日夜間小児当番、休日当番など医療機関が減少する中ではあるが、協力体制を維持するよう努めたい。懸念事項は、小児を診察できる内科系医師の減少である。

・新興感染症の対応については、有明保健所及び荒尾市立有明医療センターと連携し、正確な情報収集に努める。不要な市民の混乱が一般の診療体制に影響を及ぼすことから、行政（県・市）の積極的な協力（正確な情報発信により、医療機関に不要な問合せが殺到しないような体制づくりを行い、コロナの時のような混乱を避ける）は当然である。

・医療従事者の確保については、各医療機関の後継問題でもあり、地域医療を守る強い意思を持った若い医師に期待したい。地域医療にとって荒尾市立有明医療センターの医師確保と更なる充実が必要である。熊本大学病院はじめ、近隣大学病院（九州大学、福岡大学、久留米大学、佐賀大学）へも連携して派遣要請を行う。

また、看護師及び介護補助者の確保は厳しい状況であり、個別の医療機関では有効な打開策を見つけるのは難しい。

・病床機能ごとの推移については、有床診療所の後継問題を前進させる意味からも若い医師の意見を十分反映したものでなければならない。また、超高齢化社会の受け皿を整える必要がある。

新興感染症発生時には、患者の症状に応じた受け入れ体制を整えておく必要がある。高齢者施設等の状況を踏まえ、基幹病院と診療所の協力は欠かせないところであり、有明医療センター主催の感染症研修会が開催中である。地域での医療体制維持のためにも圏域での病床機能の調整は慎重に検討する必要がある。

4 非稼働病棟を有する医療機関について

対象医療機関：医療法人九萬会南整形外科医院

非稼働の時期：令和 2 年 5 月

今後の運用の見通し：後継医師の考えと医療スタッフの補充のことなど、病床復活に向けて検討中であり、今しばらく時間をいただきたい。

対象医療機関の代表である南九萬先生に当審査部会においでいただき、今後の見通しについて意見を伺った。

内容は上記のとおりであり、出来る限り早期に結論を出したいとのことであった。

部会員に諮ったところ、特に問題ないとの結果であった。